

若手研究者コラムリレー

栗田 昇平 (くりた しょうへい)



プロフィール

大阪体育大学 講師
日本体育学会の専門領域: 体育科教育学

静岡県静岡市駿河区出身
2004年: 静岡県立静岡高等学校卒業
2009年: 筑波大学体育専門学群卒業 学士(体育学)
2011年: 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程 修士(体育学)
2016年: 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程単位取得退学
2015年: 福岡大学スポーツ科学部 助教
2017年: 神戸医療福祉大学人間社会学部健康スポーツコミュニケーション学科 講師
2019年: 聖カタリナ大学人間健康福祉学部健康スポーツ学科
2021年: 大阪体育大学教育学部 講師(現在に至る)

E-mail: kurita@ouhs.ac.jp



わたしの研究

体育授業における協同学習モデルの適用

体育授業内で発生する学習者間の相互作用には多くの恩恵があります。協同学習モデルとはそれを意図的・効果的に運用するための学習指導方法の1つの考え方を指します。私はこれまで様々な学校体育現場において協同学習モデルの適用による体育授業改善に携わってきました。

体育授業における協同学習モデルの適用は、授業者や子ども達に多様な経験をもたらします。一昨年(2019年)に行った小学校高学年表現運動の「ハンパーダンス」を題材とした実践では、協同学習モデルの適用過程の中で多くの課題に直面することが明らかになりました。例えば、協同学習モデルを導入すると、体育授業中の特定の場面において、学習活動のマネジメント課題の決定の多くを児童に委ねることになります。児童はこれまでとは異なった課題に直面するため自身で決定しながら学習を進めていくこととなりますが、児童の決定する行いは効率的とは言えず、特に序盤は手探りな状態で非効率的な方法を取ることもしばしばあります。そのような状況下では、授業者は不安や困難を感じやすいため、教師と児童間の学習の主導権のコントロールが重要であることが分かりました。

結果として、協同学習モデルにおける表現運動の授業を通じて、児童は主張性や認知的共感性、集団適応感を高め、教師も児童らの社会的成果を得たことを実感していました。

体育授業を支援する上で特に難しくも面白いところは、ある1時間の児童の取り組みが大人からは低調にみえたとしても児童はその中から学びを得ており、その経験が次の学習を飛躍させることがあるということです。こういった場面では、計画段階では想定することのできない即興的な対応が必要となる部分といえます。現在の体育科教育の研究方法論ではそういった現象の読み取りは困難ですが、いつか授業の不確実性を乗り越え、教育現場に貢献できるような研究方法を確立していきたいと考えています。

わたしの論文・書籍・記事

栗田昇平・濱本圭一(2020)協同学習モデルを適用したフオークダンスの授業. 体育科教育, 第68巻第12号: 52-55.

(なんでも帳)

【雑感を適当に書きます】

多くの縁に恵まれて、現在4箇所目の大学に着任することになりました。人よりはそれなりに多くの大学を見て、その中で働いてきたと自負しております。それぞれの大学にそれぞれの特色があり、そしてまたそれぞれの事情があり、多くの経験をさせていただきました。

それらの中で感じたことは、これまで私たちが素朴に当たり前だと思っていたことというのは全く当たり前ではないということです。大学には私たちが普段知覚しにくいところにそれぞれの文化や風習があり、時間の流れの中で築き上げられてきた先達の善意の結晶が、知らず知らずのうちに私たち教員を支えてくれています。

自分の専門領域の授業や研究といった希望する職務に従事できること、自分の得意分野で地域や社会に貢献できること、事務の方々から私たちが働きやすいように仕事を整理してくれていること、研究室内の環境が整えられていること等々、大きく回り道をしてしまいましたが、私のこれまでの7年間という短いキャリアではありますが、これらのことに対する感謝の気持ちを持ち直すきっかけとなりました。

これから教員という立場で、大学教育の世界に飛び込もうとしている大学院の皆さん、人によっては想像もしない世界が目の前に広がることもあるかと思います。(多分、昔よりはそういう人が増えてくると思います…)そんな時こそ、こういった若手の会で繋がった人たちが助け合いながら研究者としてのキャリア形成をしていってください。私でもよければ相談に乗らせていただきます。

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました! → メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fy3kcB5a2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村)

